



株主の皆さまへ

第140期中間報告書

自 平成19年4月1日

至 平成19年9月30日

  
エンシュウ株式会社

## Top Message

### ごあいさつ



代表取締役社長

中野 茂夫

株主の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別なご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当中間連結会計期間におけるわが国経済は、企業収益の改善を背景とした堅調な民間設備投資や雇用情勢の改善などにより緩やかな回復基調を維持してまいりましたが、原油や原材料価格の高騰、サブプライムローン問題など先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような情勢の中で、当社グループは顧客ニーズに応え得る新製品開発や生産コスト削減を推進するとともに、国内外に積極的な販売活動を展開してまいりました。

しかしながら、連結売上高は工作機械関連事業部門の売上が一部下期にずれこんだこと等により減収となりました。また、利益につきましても売上減少に加え、会計処理変更に伴う役員退職慰労引当金繰入等により大幅減益となりました。

以上により、連結売上高は23,481百万円（前年同期比3.0%減）、連結経常利益は625百万円（前年同期比40.5%減）、連結当期純利益は119百万円（前年同期比81.3%減）となりました。



さて、当社グループは平成18年4月より中期経営計画をスタートさせ、「お客様から選ばれ続ける」企業を目指すことを基本方針として、基盤固めから安定的成長に向け全社ビジネスバランスの改善・改革に取り組んでおります。また、併せて財務体質の強化も図っております。

その他、当社グループの強みの基となる技術・技能の蓄積と発展を図ってまいります。また、内部統制システムのさらなる整備によるコーポレートガバナンスの強化にも取り組んでまいります。

中期経営計画の進捗状況は必ずしも計画通りではありませんが、当社グループといたしましては、安定した経営基盤の確立に、全社一丸となって取り組んでまいります。

なお、第140期中間配当につきましては、1株当たり2円50銭の配当とさせていただきます。

株主の皆様におかれましては、引き続き一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年12月



平成19年4月1日から平成19年9月30日に至る当社第140期上半期の営業の概況をご報告申し上げます。

## 工作機械関連事業部門

当中間連結会計期間における工作機械業界（日工会）の受注は前年に比べ10.5%増加し7,980億円となりました。海外向けが大きく伸長し、外需は前年を大幅に上回りましたが内需は前年を下回りました。

そのような中で、工作機械事業では当社グループの強みであるシステム機械を柱に積極的な営業活動を展開し、国内においては自動車関連業界を中心として、また、海外においては販売子会社を核として拡販に努めてまいりました。

その結果、受注につきましては前年を上回ることができましたが、売上はシステム機械の出荷が一部下半期にずれ込んだこともあり前年を下回り



横形マシニングセンタ JE60G



トランスミッションケース加工ライン

ました。また、利益につきましても売上減少や短納期対応による費用負担増などもあり前年を下回りました。

光関連事業につきましては光技術をコアとして浜松ホトニクス株式会社と連携、協業を推進してまいりました。特に高出力半導体レーザー加工機につきましては販売体制を強化し営業支援のための加工技術の向上、用途開発に取り組んでまいりました。

その結果、売上高は前年を上回ることができましたが採算的には引き続き厳しい状況が続いています。

以上の結果、工作機械関連事業部門の売上高は11,232百万円（前年同期比6.7%減）、営業利益は533百万円（前年同期比31.4%減）となりました。

現在、受注は堅調に推移しておりますが依然として顧客の納期要求や価格競争は厳しく、原材料





シリンダーブロック加工ライン

費の上昇なども懸念されます。そのような環境のもと、市場規模が変動する中、平成18年4月よりスタートしたTPM活動をベースに収益力を強化し、安定的に利益を確保できる体質を構築してまいります。特にリードタイムの短縮による生産性向上、海外調達の強化による原価低減について重点的に取り組んでまいります。

光関連事業におきましては、高出力半導体レーザー加工機の認知度が高まり有力引き合いも増えてまいりましたので、営業力の強化や加工技術の向上により販売拡大を目指してまいります。また、浜松ホトニクス株式会社および大学等との連携により研究・開発の推進も図ってまいります。



半導体レーザー溶接システム

## 輸送機器他関連事業部門

当中間連結会計期間におきましては、自動車部品の生産増加などにより売上高は前年に比べ増加いたしました。利益につきましては、減価償却費の増加などにより前年を下回りました。

以上の結果、輸送機器他関連事業部門の売上高は12,248百万円（前年同期比0.6%増）、営業利益は303百万円（前年同期比28.0%減）となりました。

今後につきましては、海外自製化による仕事量の減少や競合のグローバル化によるコスト競争の激化が予想され環境は厳しさを増しておりますが、収益性を維持しつつ売上拡大を図り、安定的に利益を確保できる体質を構築してまいります。営業力強化による新製品の取入れを拡大させるとともに、TPM活動を基軸に一層の工場改善を推進し、原価低減に努めてまいります。また品質向上に向けての仕組みづくりや世代交代のための人材育成にも取り組んでまいります。



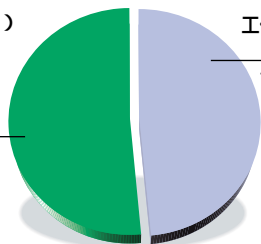
デフケース加工設備

## Sales Volume

### 売上高

23,481 百万円  
(うち海外 6,998 百万円)

輸送機器他関連事業  
52.2%  
12,248 百万円



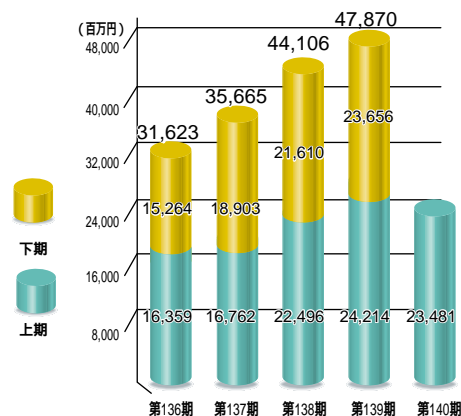
工作機械関連事業  
47.8%  
11,232 百万円

## Consolidated Balance Sheet

### 中間連結貸借対照表(要旨) (平成19年9月30日現在)

科 目	金 額
<b>(資産の部)</b>	
<b>流動資産</b>	<b>27,700</b>
現金及び預金	2,368
受取手形及び売掛金	11,604
有価証券	97
たな卸資産	10,846
信託受益権	2,092
その他の	721
貸倒引当金	30
<b>固定資産</b>	<b>16,184</b>
<b>有形固定資産</b>	
建物及び構築物	2,547
機械装置及び運搬具	5,544
土地	5,835
その他	889
<b>無形固定資産</b>	
	23
<b>投資その他の資産</b>	
	1,344
投資有価証券	185
その他	1,253
貸倒引当金	94
<b>資産合計</b>	<b>43,885</b>

## 売上高の推移



(単位: 百万円)

科 目	金 額
<b>(負債の部)</b>	
<b>流動負債</b>	<b>21,012</b>
支払手形及び買掛金	10,108
短期借入金	8,242
未払法人税等	105
賞与引当金	650
その他	1,905
<b>固定負債</b>	<b>10,289</b>
長期借入金	5,400
再評価に係る繰延税金負債	2,109
退職給付引当金	2,350
役員退職慰労引当金	114
その他	315
<b>負債合計</b>	<b>31,301</b>
<b>(純資産の部)</b>	
<b>株主資本</b>	<b>9,173</b>
資本金	4,640
資本剰余金	3,053
利益剰余金	1,518
自己株式	39
評価・換算差額等	3,344
少数株主持分	65
<b>純資産合計</b>	<b>12,583</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>43,885</b>

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## Consolidated Profit & Loss Statement

### 中間連結損益計算書(要旨) 自平成19年4月1日 至平成19年9月30日

(単位:百万円)

科 目	金 額
売上高	23,481
売上原価	21,120
売上総利益	2,360
販売費及び一般管理費	1,537
営業利益	822
営業外収益	68
営業外費用	265
経常利益	625
特別利益	4
特別損失	244
税金等調整前中間純利益	385
法人税、住民税及び事業税	138
法人税等調整額	265
少数株主利益	0
中間純利益	119

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。



### 中間連結株主資本等変動計算書 自平成19年4月1日 至平成19年9月30日

(単位:百万円)

	株 主 資 本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
平成19年3月31日残高	4,640	3,053	1,711	31	9,375
中間連結会計期間中の変動額					
剰余金の配当			316		316
中間純利益			119		119
自己株式の取得				8	8
連結子会社の増加による増加			4		4
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額(純額)					
中間連結会計期間中の変動額合計	-	-	193	8	201
平成19年9月30日残高	4,640	3,053	1,518	39	9,173

	評価・換算差額等					少数株主 持 分	純資産 合 計
	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損 益	土地再評価 差 額 金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
平成19年3月31日残高	38	3	3,203	51	3,290	11	12,676
中間連結会計期間中の変動額							
剰余金の配当							316
中間純利益							119
自己株式の取得							8
連結子会社の増加による増加							4
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額(純額)	0	1	-	54	54	53	108
中間連結会計期間中の変動額合計	0	1	-	54	54	53	92
平成19年9月30日残高	37	2	3,203	106	3,344	65	12,583

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

### 中間連結キャッシュ・フロー計算書(要旨) 自平成19年4月1日 至平成19年9月30日

(単位:百万円)

項 目	金 額
営業活動によるキャッシュ・フロー	443
投資活動によるキャッシュ・フロー	864
財務活動によるキャッシュ・フロー	816
現金及び現金同等物に係る換算差額	7
現金及び現金同等物の増加額	402
現金及び現金同等物の期首残高	3,247
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	15
現金及び現金同等物の中間期末残高	3,665

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 中間個別貸借対照表(要旨) (平成19年9月30日現在)

科 目	金 額
<b>(資産の部)</b>	
<b>流動資産</b>	<b>24,932</b>
現金及び預金	1,981
受取手形	666
売掛金	10,678
たな卸資産	8,936
信託受益権	2,092
その他	586
貸倒引当金	10
<b>固定資産</b>	<b>16,540</b>
<b>有形固定資産</b>	
建物	2,402
機械装置	5,550
土地	5,835
その他	1,024
<b>無形固定資産</b>	<b>23</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>1,705</b>
<b>資産合計</b>	<b>41,472</b>

(単位:百万円)

科 目	金 額
<b>(負債の部)</b>	
<b>流動負債</b>	<b>18,908</b>
支払手形	2,511
買掛金	5,834
短期借入金	8,242
未払法人税等	65
未払消費税等	73
賞与引当金	650
その他	1,530
<b>固定負債</b>	<b>10,274</b>
長期借入金	5,400
再評価に係る繰延税金負債	2,109
退職給付引当金	2,350
役員退職慰労引当金	114
その他	300
<b>負債合計</b>	<b>29,182</b>
<b>(純資産の部)</b>	
<b>株主資本</b>	<b>9,051</b>
資本金	4,640
資本剰余金	3,053
利益剰余金	1,396
自己株式	39
<b>評価・換算差額等</b>	<b>3,238</b>
<b>純資産合計</b>	<b>12,290</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>41,472</b>

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。



## Profit & Loss Statement

### 中間個別損益計算書(要旨) 自平成19年4月1日 至平成19年9月30日

(単位:百万円)

科 目	金 額
売上高	21,330
売上原価	19,662
売上総利益	1,667
販売費及び一般管理費	1,274
営業利益	392
営業外収益	95
営業外費用	210
経常利益	277
特別利益	1
特別損失	231
税引前中間純利益	47
法人税、住民税及び事業税	41
法人税等調整額	98
中間純損失	92

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

### 中間個別株主資本等変動計算書 自平成19年4月1日 至平成19年9月30日 (単位:百万円)

	株 主 資 本						
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		自己株式	株主資本計
		資本準備金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計		
平成19年3月31日残高	4,640	3,053	3,053	1,806	1,806	31	9,469
中間会計期間中の変動額							
剰余金の配当				316	316		316
中間純損失				92	92		92
自己株式の取得						8	8
株主資本以外の項目 の中間会計期間中の 変動額(純額)							
中間会計期間中の変動額合計	-	-	-	409	409	8	417
平成19年9月30日残高	4,640	3,053	3,053	1,396	1,396	39	9,051

	評 価 ・ 換 算 差 額 等				純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計	
平成19年3月31日残高	38	3	3,203	3,238	12,707
中間会計期間中の変動額					
剰余金の配当					316
中間純損失					92
自己株式の取得					8
株主資本以外の項目 の中間会計期間中の 変動額(純額)	0	1	-	0	0
中間会計期間中の変動額合計	0	1	-	0	417
平成19年9月30日残高	37	2	3,203	3,238	12,290

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## Company Profile

### 会社の概要

商 号	インシュウ株式会社(英文 ENSHU Limited)
設 立	大正9年2月5日
資 本 金	46億4,085万円
発行済株式総数	63,534,546株
生 産 品 目	工作機械、輸送機器関連部品 半導体レーザー加工機

## Business Establishment

### 事業所

本 社 及 び 工 場 〒432-8522 静岡県浜松市南区高塚町4888 電話 053-447-2111(代)

浜 北 工 場 〒434-0016 静岡県浜松市浜北区根堅788 電話 053-588-0211(代)

#### 営 業 部 ・ 支 店

営 業 部 〒434-0016 静岡県浜松市浜北区根堅788 電話 053-588-4771(代)

東 京 支 店 〒140-0011 東京都品川区東大井4-13-15(スターハイツ)  
電話 03-5479-1671(代)

大 阪 支 店 〒564-0063 大阪府吹田市江坂町1-23-43(ファサード江坂ビル)  
電話 06-6338-2471(代)

サービスステーション / 高崎・金沢・広島

#### 海 外 現 地 法 人

ENSHU(USA) CORPORATION (シカゴ)  
ENSHU GmbH (フランクフルト郊外)  
ENSHU (Thailand) Limited (バンコク)  
BANGKOK ENSHU MACHINERY Co.,Ltd. (バンコク)

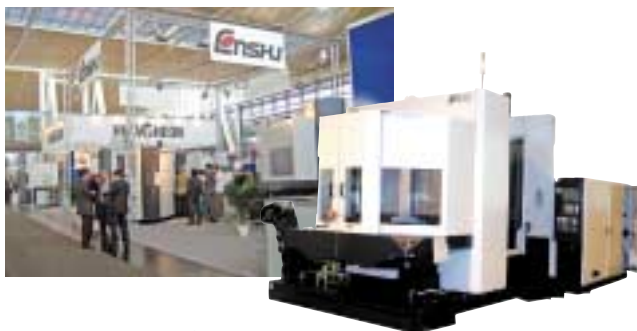


## EMOショー 2007



東京のJIMTOF、シカゴのIMTSと並び世界三大工作機械見本市のEMOショー(欧州国際工作機械展)が、9月17日~22日迄、ドイツ・ハノーバーの国際見本市会場で開催されました。42カ国・地域から1,200社が出展、来場者も166,000人と大変盛況でした。

当社からは、『JE60G』、『JE80S 5軸仕様+350本ツールマガジン』、『JE100』の3機種3台を出展し、会場にて多くのご成約を頂き、成果のある展示会となりました。



横形マシニングセンタ JE100



横形マシニングセンタ  
JE80S 5軸仕様

## 2007 自動車部品生産システム展



自動車部品メーカーと部品製造機器メーカーがニーズをすり合わせ、活発な交流・商談を図れる場として「2007自動車部品生産システム展」が6月13日~16日東京ビッグサイトで開催されました。245社10団体が出展し、会場は2万8千余名の来場者で賑わいました。

当社からは高出力半導体レーザー溶接システム「L1」、高出力レーザー加工システム「LJ」、ファイバ出力型半導体レーザー加工機「L micro」を出展し、多くの来場者からの注目を集めました。



高出力半導体レーザー溶接システム L1

Director  
役員

平成19年9月30日現在

代表取締役社長	中	安	茂	夫
専務取締役	千	賀	伸	一
常務取締役	安	田	俊	二
取締役	中	村	泰	之
取締役	小	木	国	典
取締役	柳		弘	之
取締役	野	田	純	孝
常勤監査役	松	山	美	廣
監査役	石	塚		尚
監査役	鈴	木	芳	男
監査役	大	隅	安	次



Memo  
株主メモ

決算期	毎年3月31日
剰余金の配当の基準日 ( 期 末 配 当 )	3月31日
( 中 間 配 当 )	9月30日
定時株主総会	毎年6月 なお、定時株主総会において権利を行使することができる株主は、毎年3月31日最終の株主名簿および実質株主名簿に記載または記録された議決権を有する株主となります。
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
[ お問合わせ先 ]	〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120 288-324(フリーダイヤル)
同 取 次 所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインバスターズ証券株式会社 本店および全国各支店
1単元の株式の数	1,000株
公 告	当会社の公告は、電子公告により行う。 <a href="http://www.enshu.co.jp/koukoku/">http://www.enshu.co.jp/koukoku/</a> ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行う。
株 式 の 上 場	東京、名古屋両証券取引所市場第一部



エンシュウ株式会社

インターネット上にホームページを開設しております。

エンシュウ株式会社 <http://www.enshu.co.jp/>

ENSHU USA CORPORATION <http://www.enshuusa.com>